

研究開発課題名

抵抗性品種とネットハウスによる 美味しいキャベツの超減農薬栽培

研究機関名

株式会社日本農林社

研究委託機関名

財団法人東京都農林総合研究センター

研究の背景・目的

安全・安心な農産物を求める消費者のニーズが高まっています。しかし、野菜の中で最も多く消費されている野菜の一つであるキャベツ生産は、現状の生産方式では減農薬栽培は困難です。そこで、土壌病害抵抗性品種の利用による病害回避と、ネットハウス内の栽培による害虫回避を組み合わせることで超減農薬栽培を実現します。

成果の内容・特徴

- (1) 'YCR・AG4、トンガリボウシ'などの品種を用い、ネットハウス内で超減農薬栽培(図1)を行うと、農薬を13剤散布する慣行栽培と同等な収量・品質が得られます(図2)。
- (2) 定植時に粒剤処理のみを行った露地栽培では害虫の被害により収穫は皆無でしたが、ネットハウスでの害虫被害はきわめて少なくなりました(図3)。
- (3) 露地栽培にくらべ、ネットハウスで栽培された収穫物は食味の甘さ、やわらかさ、おいしさなどから高く評価されました。ネットハウスでは美味しいキャベツが栽培できます(図4)。
- (4) 87%の消費者が通常の価格より高く、超減農薬栽培のキャベツを購入すると回答しています(図5)。
- (5) ハウスを所有している農家は、ネットを購入するだけで超減農薬栽培が可能です。薬剤費や散布労力が軽減され、安全・安心な美味しいキャベツが生産できます。

成果の活用・留意点・普及予定

- (1) 萎黄病、根こぶ病が懸念される圃場では抵抗性品種の使用により安定して超減農薬栽培が行えます。
- (2) ネットの目合いは、害虫防除や生育などから0.6mm 0.8mmの範囲が適正です。
- (3) 害虫防除のため、ネットとキャベツの外葉が触れないように、ネットから70cm程度離して定植します。ネットハウス内に万一害虫の発生を見たら、被害の拡大を防ぐため薬剤散布を1~2回行う必要があります。
- (4) 2006年の夏まで現地での実証栽培を行い、普及をはかっていきます。

問い合わせ先

株式会社日本農林社 阿見研究開発センター

所在地 茨城県稲敷郡阿見町大形字箕輪1669-3 TEL. 029 - 889 - 0808



図1 ネットハウスでのキャベツ超減農薬栽培

ネットハウス内で農薬をほとんど使用しないで栽培します。

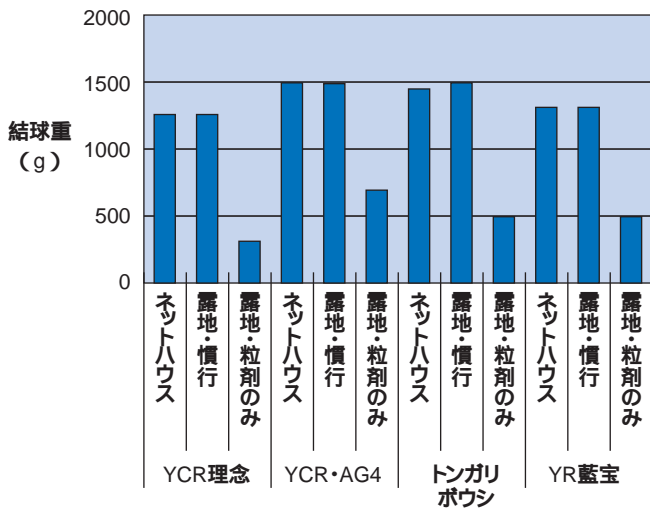


図2 ネットハウスでの結球重

ネットハウスでは露地の慣行栽培と同等な収穫物が得られます。

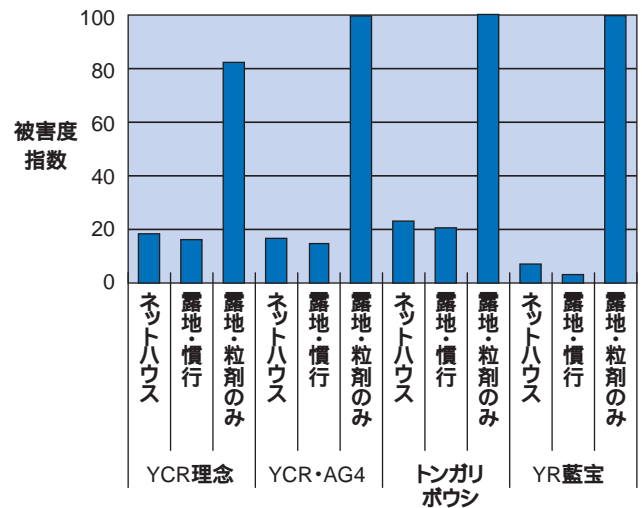


図3 害虫の被害程度

露地・粒剤のみにくらべ、ネットハウスでは害虫の被害が少ないです。

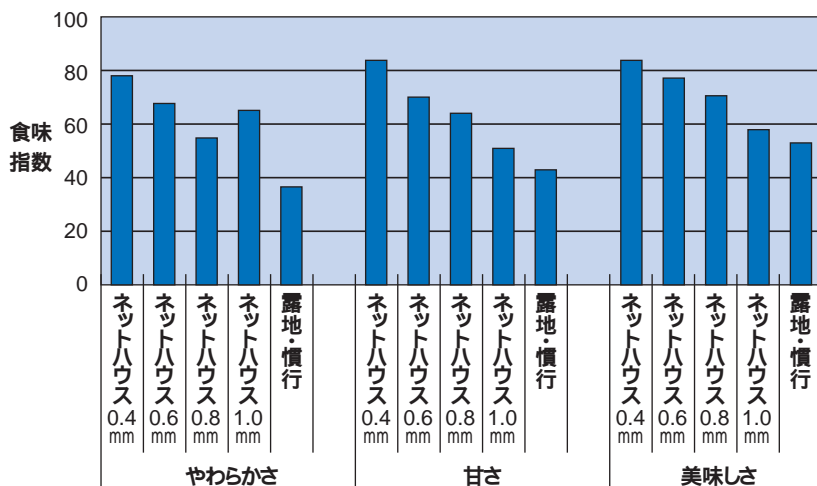
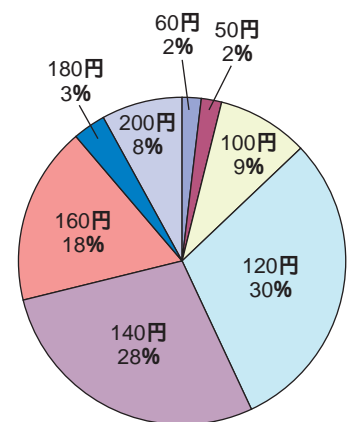


図4 ネットハウスの目合いと食味

露地・慣行栽培にくらべ、ネットハウスで栽培されたものは食味が良いです。



品種：トングリボウシ

図5 慣行栽培キャベツを100円とした時の超減農薬栽培キャベツの購入価格

87%の消費者が高い価格で購入すると回答しています。